

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号			
法人名	社会福祉法人 正恵会		
事業所名	グループホーム 宝寿の里		
所在地	栃木県宇都宮市宝本町1769-1		
自己評価作成日	平成23年8月31日	評価結果市町村受理日	平成23年11月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=09
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成23年 9月 20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念のもと、職員一同がご利用者様と共に生活をしており、年間行事なども盛りだくさん計画をしています。高齢化も進み、状況に応じた行事内容を取り入れ一年間を通してご利用様には楽しんで頂いております。また、職員一人ひとりが自分の役割を理解し、ご利用者様が満足して頂けるよう日々取り組んでおります。また、専門性の習得にも自主的に取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは市北西部の田園地帯の雑木林に囲まれた場所に位置し、近隣には中学校・小学校等があり、同法人が併設する特別養護老人ホームと連携して運営されている。当法人の敷地において地域で開催される納涼祭が行われる等、入居者と地域住民の交流が行われており、地域との関係は良好である。ホーム事務室には(理念と基本方針、ケア目標)が掲げられて、職員達の意識づけが構築されている。管理者と職員は年3回の話し合いや、食事会等によるコミュニケーションの場を設けており、職員個々がやりがいをもって支援に取り組んでいる。入居者家族には、ほのぼの通信(写真入り広報誌)を活用して、ホームでの様子を定期的に報告し、交流会等も設けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、ホーム理念は、朝礼にてスタッフ全員で唱和され、共通認識にて一日のケアが始まる。	「ゆったりと楽しく、自由にありのまま、一緒に過ごすケア、暮らしに喜びと自信を」というホーム理念と法人理念を事務室内に掲げ、朝礼にてスタッフ全員で唱和し、理念の共有に努めている。また、日々の支援においても理念の意識づけをしながら実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	長寿会へ1/2への参加。H23年5月より、仁良塚自治会7班は入会。恒例行事である、8月の地域を巻き込んだ納涼祭への参加。	地域住民の一員として自治会に加入したり、2ヶ月に1回開催される長寿会に参加している。地域の納涼祭は法人の敷地が会場となり、踊りやダンス等地域住民との相好関係を構築している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会への参加ができるようになり、地域の方へ認知症の人の理解を少しずつ伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員会開催1/2回開催【国本包括・自治会長・管理者・ご利用者様】との行事報告や取り組み内容の提案をし話し合っている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、自治会関係者・地域包括支援センター職員から助言を得ている。自治会長より回覧板を活用したボランティアの募集の話の聞いたり、行事等においては家族交流会の設定など、意見や要望などを受け双方向的な会議となるよう配慮している。	入居者家族等にも再度参加を促し、家族の持ち回りによる参加を配慮したうえで、要望や意見を聞くことに期待したい。また、議題によっては警察官・民政委員・消防所職員等にも参加してもらい、ホームの現状報告だけでなく次のステップに向けた目標実現等を目指して、充実した会議になることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	制度や運営等に対しての相談はさせていただいているも、もう少し積極的な連絡を密に取って行くようにする。	市担当者には運営状況等について報告をし、制度、運営等課題を相談したり、アドバイスをもらったりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、職員一同周知徹底をし、都度確認をしている。夜間・緊急【一時的】時のときは、鍵をかけている。	管理者・職員は身体拘束の内容やその弊害を認識しており、身体拘束のないケアの実践に取り組んでいる。一人ひとりの身体状況や不安、混乱等の精神面にも考慮しながら予測されるリスクを家族等と話し合い、抑圧感のない暮らしの支援に取り組んでいる。日中は職員の見守りにより玄関の施錠はしていないが、夜間、緊急時には安全の為に施錠している。	

グループホーム宝寿の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ご利用者様の身体確認等、記録上での状況		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・一部スタッフは理解をしている。外部学習への参加をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書の説明を行い、内容については、ご理解をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	交流会で、意見・要望の話す機会を設け、対応している。電話での対応を設けているものの、外部での提示はしていない。	家族からの意見や要望はホームにとって大切な宝と受け止め、交流会や電話等で意見や要望等を聞く機会を設けている。出された意見や要望等はミーティングで話し合い、運営に反映させている。また、家族に対して、年1回のペーパーでの聞き取りを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者との年数回の話し合いの中で、ホームでの実践する内容や目標を掲げ、意見交換の場を設け、より良い環境づくりに取り組んでいる。	職員は日々の業務や会議等において意見や提案等を出す機会が設けられている。管理者との推進会議を年3回開催したり、一緒に食事をしながら提案やアドバイスをもらう等、よりよい職場環境づくりに取り組み、支援の反映に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に対しての環境は、整備されており個々のやりがいを持って取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人の研修制度は、苑として実施しているほか、ホームでも勉強会を実施している。各ユニット1名のチューターを配置している。		

グループホーム宝寿の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	苑としてのグループホーム見学の実施が出来ていない。今後実施する予定あり。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の行動を見極め、会話の機会を増やし、不安状況を出来るだけ抱かない環境づくりに取り組んでいる。アセスメントの見直し、モニタリングの実施。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話での定期的な状況報告と面会時には意見交換をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様のニーズに合わせた対応と今後のことも視野に入れた対応をしている。【例えば、特養への申し込み】		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の態度や行動を理解し、その方に合ったケアをし、同じ目線での対応をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年2回の家族交流会などで、利用者様の普段の生活状況を見て頂いたり、面会時には、日々の生活状況をお伝えし、共有していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所を本人や家族様の協力を得、実施したいる。	家族等から入居者がこれまで培ってきた人間関係や社会とのつながりを確認し、その関係づくりが途切れないような支援に努めている。また、益子焼きの絵付等へ出かけるなど、家族の協力を得ながら入居者の思い出の場所へ出かけることもある。	

グループホーム宝寿の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の趣味や生きがいとする事を把握し、出来るだけ関わりがもてるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年に一度では有りますが、苑主催の納涼祭への参加を頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人おひとりの生活状況にあったケアが出来るよう、職員間での情報の収集や共有に努めている。	日々の関わりの中で声かけを行い、言葉や表情等から真意を推し測り、思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な場合は家族等からの情報を得ながら、本人本位に検討し、支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様からの情報を頂いたものに、日々の生活状況の中で都度情報を頂き記入している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々人の一日の生活状況を記録にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアーマネジャー中心に職員全員で取り組みお一人おひとりに合ったケアの取り組みをしている。	入居者及び家族のニーズを踏まえ、全職員の気づきや提案等も参考にしながら、個別具体的な介護計画を作成している。見直しは概ね3ヶ月を目安としており、状態に変化が見られた場合には家族・関係者と相談しながら随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録の中から、職員間で話し合いをし、ケアに活かし実践している。		

グループホーム宝寿の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様からの要望があれば、出来だけ沿えるようは配慮させて頂いている。また、家族様からの相談、オムツ券の支援、通院支援、訪問歯科、介護保険の更新の手続き等を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防車様のご協力を戴いき、避難訓練を実施している。一人外出をされる方のご家族様より了承を得て、駐在所は情報提供を行っている。また、ご近所様へ配れるよう写真の保管。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様の希望、確認により、ホームドクターの往診訪問看護	入居時に従来のかかりつけ医か、ホームの協力病院にするか希望と確認をしながら選択している。ホームドクターの往診や訪問看護等、家族との情報の共有を図りながら、家族の合意を得たうえで支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者様の早期発見に努め、ホームドクター、訪問かん		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主に第一病院になっている。情報は、看護しまたは事務職員とのやり取りで行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化になってしまわれた利用者様のご家族様に情報・状況や相談を電話にて、連絡をとり共有した中で取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた本人・家族の意向を踏まえながら対応方針の共有を図っている。協力病院の看護師が月3回訪問している。本人と家族のニーズをくみとりながら、安心と納得を得られるよう話し合いを繰り返し、チームで支援に取り組んでいる。過去に何度かホームでの看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医または訪問看護師に、確認・伝達・共有と取り組んでいる。9月より4ヶ月にわたり、救命講習を全職員参加での実施に取り組む。		

グループホーム宝寿の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回全スタッフが避難訓練を行っている。本年5月より自治会へ入会をしたことにより地域の皆様にご理解いただいての協力体制の確保。	年2回避難訓練を実施している。地域の消防団員が夜警巡回をしたり、地域の方々や自治会の協力体制は確保されている。3月11日の地震を教訓に、防災ずきんや備蓄も確保している。避難場所としては法人及びホームの庭園としている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の尊厳、プライバシーの確保を十分理解し全職員対応をしている。	職員は常に、入居者に対して年長者として敬意を払い、その人らしい尊厳ある姿を大切にしている。入居者には自己決定しやすい言葉かけをするように努め、目立たずさりげない対応に配慮している。訴えの困難な入居者には表情や言動を察知して、リズムやペースを第一に考えた支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	訴えの困難な利用者様の表情言動を察知し、対応できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様お一人お一人のリズムやペースを第一に考えての支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で出来る支援、またパーマ屋さんが見えカットして頂く。本人の希望にて、近隣と床屋さんへ行く事もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員との会話の中で、その日の食べたい物を言って頂き、提供できるよう取り入れ手伝えて頂く。中庭での収穫時期には、利用者様と一緒に収穫を楽しみ食材として提供する。	入居者の好き嫌いを把握し、残飯量を確認しながら、主治医との連携をもとにバランスを考慮してメニューを作成している。調理方法については食べやすいように配慮している。食材は業者に発注しているが、当ホームの中庭で栽培している野菜を入居者と一緒に楽しみながら収穫し、食材として利用している。おやつの買い出し等は月2回行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食のバランスを考え、主治医の先生との連携を図り、利用者様一人ひとりの状態を把握し、提供をしている。水本も状況により小まめの対応をし、摂取して頂いている。		

グループホーム宝寿の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様の状況に応じ、毎食後の口腔ケア実施をして頂き、週に一回訪問歯科にてお一人お一人のケアをして頂く。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人の排泄状況や、その日の状況を把握し、小まめな声かけや誘導し合わせた支援を行っている。	一人ひとりの排泄サインを職員は把握しており、本人の生活リズムに沿った支援をしている。失禁時等の対応についても、羞恥心や不安を軽減するためにさりげない誘導を心がけて対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食生活と主治医の先生、訪問看護との連携図り個々に合わせた対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調管理した上で、希望に応じた入浴を楽しんで頂いている。	入居者のこれまでの生活習慣や希望にあわせた入浴支援をしている。入浴時間は決まっているが、希望に応じて夕方や睡眠前の入浴も可能である。入浴は、着脱を含め30分～40分程度として、同性介助の希望にも対応している。また、入浴拒否傾向がある入居者には、希望を聞きながら職員間で工夫をしながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や状況を確認した上で、休息の時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況・内容を確認している中で、体調の変化を見逃さないよう配慮している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別支援として、馴染みの物や事を配慮し支援につないでいる。		

グループホーム宝寿の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	苑の行事の中でも、その方に合った外出先を選択し楽しんで頂いている。普段も状況に応じてのドライブ・散歩に出かけている。	日常的に、入居者に合った外出先を選択しながら、ドライブ・散歩等の外出支援を行っている。季節や天候を考慮し、行事として実行している。今後、利用者を数名に分けた一泊旅行を計画し、行事として予定している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理のできる利用者様は限られており、その方の要望に沿った対応はしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一部の利用者様の対応となって知るが、その方からの要望またはスタッフからの声かけでの対応としている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感としては、季節に合った工夫や、声掛けをしている。季節感としては、スタッフ手作りの食であったり、飾りであったりと工夫をしている。	共有空間は採光が適切に確保され、ホーム内も清潔に保たれ、不快な臭い等は感じられず、全体的に居心地良く過ごせるよう配慮されている。壁には職員の手作り人形や入居者と作成したジグソーパズル、行事等の写真が飾られている。共有空間が入居者にとって団欒の場となっており、入居者同士が語りあっている姿があった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自分の意思での行動が出来ない利用者様には、スタッフが支援している。他の方は、自由に人間関係をつくり楽しんで頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分に合った馴染みのもを中心に生活空間が広がり、居心地の良い状況の提供に心がけている。	安心して居心地良く過ごせるように、仏壇や家族の写真等を持ち込む等の工夫や配慮をし、一人ひとりに沿った支援に努めている。さらに、居室には洋室と和室があり、入居者の持ち味を生かした部屋づくりが個々にされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境で生活支援、できる援助を中心に支援を行っている。		